

『後半ステイント中に不運のトラブル、本来のレースが出来ず 12 位完走』



シリーズ名 : 2024 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2024 AUTOBACS SUPER GT Rd.8 「MOTEGI 300 km RACE」

レース距離 : 1 周 4.801km×63 周 (302.5km)

11 月 2 日 (土) 天候 : 雨 コース状況 : ウェット

公式予選 : GT500 クラス 15 位 (3:46.837(Q1/Q2 合算))

Super GT 2024 シーズンも、本戦を含め、残り 2 戦。第 6 戦から 3 戦連続でウェットコンディションでの開催となり、公式練習、予選ともども、雨に翻弄される予選日となった。

公式練習は、赤旗が何度も提示され、500 クラスは混走時間帯のみ、占有走行は中止となり、全車が満足な練習走行が出来ない中、19 号車も阪口選手のみが 7 周周回して 1:54.283 (7 周目) のタイムで 12 番手となった。予選も、300 クラスの Q1 にてコース上で、かなりの台数の車両がスピンアウトするなど、2 度の赤旗が提示される波乱の展開となった中、500 クラスの Q1 が行われ、アタックドライバーは阪口選手となる。10 分間の Q1 は、スタート直



後に全車がピットアウトし、路面温度が低い中で、少しでもタイヤに熱を入れるために周回を重ねていく事となる。雨は収まることがなく、レースカーが通るたびにウォータースクリーンが上がり、視界がなくなる中、懸命なアタックをする阪口選手は、周回ごとに自己ベストを上回るタイムを出していたが、結果、1:54.872 と 15 番手タイムとなりました。

Q1 の結果は 64-14-8-38-39-100-16-36-37-12-23-3-17-24-19 となりました。

Q2 は国本選手がドライブ。Q2 も全車が開始すぐにコースイン。ウェットは変わらず、冷たい路面と相まって、各車タイムアップに苦戦している。その中、19 号車は残り 2 分で 1:51.965 を出し、最後のアタックに入ったが、タイム更新にはならず、Q1/Q2 合算タイムで 3:46.837 と 15 番手タイムとなりました。

Q1/Q2 の合算タイムでの順位は 64-8-36-38-14-16-39-37-100-12-3-17-23-24-19 となりました。



【予選終了後 坂東監督コメント】



『まずは結果が出なくて、すみませんでした。
 両ドライバーには、もっと暖めやすいタイヤを用意出来なく、本当にすみませんでした。
 Q1、Q2 違うタイヤで行きました。
 今回は乾いてくる状況ではなかったので厳しい予選となりました。
 しかし、明日はドライコンディション。
 明日の決勝は最後尾からのスタートとなりますが、チーム一丸となって表彰台を目指し、爆走していきます。』

11月3日(日) 天候：晴 コース状況：ドライ

決勝：GT500 クラス 12位

モビリティリゾートもてぎで開催される第8戦。雨の予選とは打って変わって、雲一つ無い決勝レース。第5戦の延期に伴って、最終戦ではなくなった本戦は、サクセスウェイトが全車半分となり、更にドライでの争いとなり、午前中に行われたウォームアップ走行のみの全車満足なセッティングなしでの、ぶっ続けの本番となるので、抜きにくいコースレイアウトと相まって、混戦必至となるだろう。そのウォームアップで19号車は決勝に向けてのタイヤを確認して7周周回し、タイムは1:42.139の14位を記録。しかしタイヤの暖まり等を確認していたので、タイムは全く気にしていなかった。



スタート前には、毎年恒例となったモビリティリゾートもてぎの上空にて航空自衛隊のF2戦闘機2機によるデモフライトが行われ、サーキットに華を添えた。決勝直前の気温/路面温度は21度/29度。スターティングドライバーは国本選手。最後尾からの追い上げに期待がかかる。13時、栃木県警の国産スポーツカーのパトカーと白バイとのパレードラン後、フォーメーションラップを1周経てレースの火ぶたが切られた。



序盤は大きく順位が変わることなく、前の車両を追いかける19号車は、15位のまま。

7周目に300クラスの車両が止まったため、FCYが提示された。約1周周回し、レースが再開するも、9周目300クラス車両がコース外に止まり、再びFCYが提示される。



12周目に37号車が緊急ピットとなりガレージに入れられ、19号車が1つ順位を上げる。

その後、前の23号車との差を1秒前後にしつつ周回を重ねていく。20周目での19号車の順位は14位のまま。

レース周回の1/3を超えた23周目に一部の500クラスの車両が1回目のピットに入る中、23号車をパスした19号車は暫定の8位になると、24周目にピットに入り、フルサービス・ドライバー交代しピットアウト。暫定12位でコースに戻った。全車1度目のピットインを終了した25周で19号車の順位は14位となる。

27周目にドライバーから『加速がおかしい、音もおかしい』と無線が入った。



色々とマップを変えて走行するようチーム側は指示したが、変わらない為、チームは苦渋の決断をし、ピットに入れた。そのままレージに頭から車を入れて、全てを確認、思い当たる部品を交換してトップと 5 周遅れでコース復帰。その後、19 号車単独走行となり、45 周目に 300 クラス車両が 1 コーナーで飛び出したことによる 3 度目の FCY が入る。レース再開後も、19 号車は T O P と遜色ないタイムで周回を重ねていく。

残り 10 周で、17、14 号車がピットに入りレースに戻らなかったため 2 つ順位を上げた。その後、ペースはトップだったが他車に迷惑をかけないようにドライバーに指示をして 19 号車はペースを守り、5 周遅れの 12 位完走いたしました。

レースは序盤大きな順位変動がなく進むが、7 周目に出た FCY が解除された直後に 2 位の 8 号車がトップの座を奪うも、2 度目の FCY 解除時に 64 号車そして 36 号車が 8 号車をパスすると、程なく 36 号車が 64 号車をパスしてトップに出ると、36 号車が逃げを打ち、一時 2 位との差を 20 秒以上広げトップでチェッカーを受けました。2 位以下は、8-38-16-39-100-3-24-23-64-12-19-14-17- (以上完走) -37 となりました。

最終戦（ラウンド 5）は 12 月 7-8 日 鈴鹿サーキットで開催されます。



決勝コメント

【坂東監督】



『悔しいです。レースがしたかった。』

セカンドスティントのペースは良かったです。

23号車に追いついて、また距離あけて追いついてと指示をしてしまったため、ドライバーには本当に申し訳ない。ただ悔しいです。成長して最終戦に挑みます。

本当に皆様のご声援、誠にありがとうございました。ストレスの溜まるとても苦労した2日間でした。ウェットの予選では課題が多く最後尾、決勝はトラブルが出てしまい勝負権を失いました。後半スティントにペースが良かっただけに、残念なレースとなりました。求めている結果が出せず悔しい週末でしたが、最後の最後までチームと共にベストを尽くして戦って、最終戦は良いレースが出来るようにしていきます。』

【国本選手】



『ストレスの溜まるとても苦労した2日間でした。』

ウェットの予選では課題が多く最後尾、決勝はトラブルが出てしまい勝負権を失いました。

後半スティントにペースが良かっただけに残念なレースとなりました。

求めている結果が出せず悔しい週末でしたが、最後の最後までチームと共にベストを尽くして戦って、最終戦は良いレースが出来るようにしていきます。』

【阪口選手】



『ドライになり新しいコンパウンドも導入しての決勝でした。自分が担当した2スティントで履いたスペックのタイヤが機能し、ハイペースで走ることができました。しかし残念ながらエンジントラブルでピットイン。その後レースを続けることはできましたが、圏外になってしまいました。』

トラブルやヘビーウェットのパフォーマンスの低さなど改善点は多いですが、ここまで決勝ペースが良かったスティントはなかったので、かなり今後につながる決勝だったのではないかと思います。

最終戦気候が変わりますが、いいレースができるように準備していきます』



SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDOH

<http://www.bandohracing.com/>

